

2021年3月期第2四半期 機関投資家・アナリスト向け説明会 主な質疑応答

Q1 ホテル業について

ホテル業の収支改善策および営業黒字化の条件について教えてほしい。

- ・ ホテル業では、ホテルセンチュリー相模大野において総合型シティホテルから宿泊特化型ホテルへの業態変更を予定しているほか、ハイアットリージェンシー東京においては婚礼事業からの撤退など、収支効率を高めるべく事業の見直しを図っている。
- ・ そのほか、費用の圧縮策として従業員の一時帰休やマルチタスク化、諸経費の削減を進めているほか、都心のホテルにおいては、デユースプランをはじめとした、新プランの販売に加え、GoToトラベルキャンペーンや地域共通クーポン、「もっとTokyo」等の利用者獲得に向けた販売促進を実施している。
- ・ 黒字化に向けては、これらの施策に加え、インバウンドが一定程度回復することが条件になると考えている。

Q2 新宿西口再開発について

投資規模はどの程度になるか教えてほしい。

- ・ 現時点では、施工に向けた設計の着手前であり、ご説明できる段階ではないことをご理解いただきたい。今後、投資額や収支計画等の精緻化・深度化を図っていくが、この再開発はアフターコロナにおける小田急グループの企業価値向上に資するプロジェクトであり、最大限のリターンを獲得できる計画にしていきたい。

Q3 財務体質の改善について

不動産・政策保有株式等の流動化余地はどの程度あるのか。

また、新宿西口再開発が2022年度から始まるなかでも、連結財務指標を改善していくことは可能なのか。

- ・ 政策保有株式については、発行会社との事業上の関係の維持・発展への貢献度等の定性的観点のほか、資本コスト、配当収益その他の定量的観点から、保有のねらい・合理性に関する検証を進めている。
- ・ 19年度末時点の政策保有株式は純資産の13%程度であるが、保有の意義が薄れた株式については、売却等により削減を図る方針である。
- ・ また、財務健全性の観点から不動産の流動化についても検討を進めていきたいと考えている。流動化する不動産については、EBITDAの減少等に留意しながら選定していく。

Q4 手元流動性について

直近では危機対応の観点から手元流動性が高いが、今後の水準をどのように考えているのか。

- ・ 急速な売上減少およびグループ各社を含めた資金繰りに備え、上期に手厚く資金調達を行った結果、現在1,000億円を超える現預金を保有しているが、下期に追加での資金調達は予定していない。
- ・ 今後の状況を見極めながら、有利子負債の圧縮を念頭に経費・設備投資の削減に努め、これまでの水準に近い現預金の保有としていく予定である。

以 上

※ 本資料は、説明会での質疑応答をそのまま書き起こしたのではなく、加筆・修正等を加え、当社がまとめたものであることをご了承ください。